

平成 30 年度府中市障害者等地域自立支援協議会  
就労支援部会 最終報告

平成 31 年 1 月 31 日

## 1 部会員氏名

No	氏 名	選出母体および役職等
1	◎高橋 美佳	地域生活支援センターあけぼの 所長
2	○近藤 優子	府中市福祉作業所等連絡協議会 ギャロップ 施設長
3	桑田 利重	地域生活支援センターみ～な センター長
4	田村 智久	府中市パーキンソン病友の会
5	吉井 康之	府中市社会福祉協議会 地域推進部地域活動推進課長補佐兼権利擁護課長補佐兼 まちづくり推進係長兼府中ボランティアセンター長
6	吉岡 美佳	東京都立府中けやきの森学園
7	今野 ゆかり	府中公共職業安定所 専門援助部門 統括職業指導官
8	小鶴 隆志	東京都立府中療育センター

◎部会長 ○副部会長

## 2 検討内容

市内の就労支援について課題を整理し、ハローワークや庁内実習実績、関係機関からの意見等を得ながら議論を進め、就労を長く継続するためにより良い方法を、課題や背景を基に意見を集約する。

## 3 会議報告

第 1 回会議 日時 平成 30 年 7 月 31 日 (火) 14:00～16:00 出席委員 6 名

今年度の活動について検討が行われた。

今後 5 回の会議の内容について具体的に決めていく。見学やオブザーバーをどうするか。

必要性の見える化をどのように出して、最終的にどのようにまとめるかなどが話し合われた。具体的には以下について数字や図式化していく。また、府中市においてより良い就労支援を行っていくために、就労支援部会は今期に限らず、次期も続けていきたいということも話し合われた。

\* 社会の変化 雇用率が上がり、50 人以上の従業員をかかえる事業所が納付対象となる。

\* 登録者の推移 ハローワーク、就労支援センターみ～な (以下、「み～な」とする。)

\* ハローワークの管轄の市の現状 人口、障害者数、就労支援センター相談員人数。

\* 就労移行支援利用者数 (府中)

\* み～なの仕事 (事例なども入れて分かりやすく、あるべき姿と現状のギャップを明確に表す。)

\* み～なの現状

最終報告としては、府中市において就労支援センターの職員の数が足りないということを結論付け、も

う1ヵ所増やす、またはみ～なに増員するということを提言していく。

**第2回会議** 日時 平成30年8月23日(木) 10:00～12:00 出席委員 4名

第1回会議で出された項目について具体的な数値を持ち寄り、報告を行った。また、み～なの仕事の見える化の図の作成を行った。

#### 1 各数値の算出報告

- \*府中市就労移行支援の支給決定者数 (H30.8.20時点)
- \*ハローワーク府中管轄自治体の就労支援センター 常勤換算数 (単位:人)
- \*法定雇用率の上昇の歴史
- \*障害者雇用納付金
- \*近隣市の状況
- \*み～な支援先 (企業・関係機関)
- \*み～な登録者等経過

#### 2 み～なの状況の確認

- ・非正規職員の短期間での入れ替わりが多い。正規と非正規の2人組で対応して、どちらかがいなくても対応できるようにしている。
- ・ともだちサークル (登録者で仕事が安定している人) …月1回40名程度参加  
来ていない人の様子を知ることが難しい順調な人は家庭も安定している。SOSを出せない人は面談にも来ない。
- ・仕事の支援だけでなく、お金の使い方、生活の支援にも目を向ける必要がある。
- ・会社に理解してもらうための支援も必要。
- ・離職の支援をすることもある。

**第3回会議** 日時 平成30年9月28日(木) 10:00～12:00 出席委員 6名

第2回会議に引き続き、必要な数値を出し、就労支援センターの必要性の見える化を行った。

#### 1 各数値等の算出報告

- \*府中市就労移行支援の支給決定者数 (H30.8.20時点) 71名  
年によって波はあるが毎年60名前後が支給決定されていて、増加傾向にある。(就労予備軍)
- \*ハローワーク府中管轄自治体の就労支援センターの職員数と登録者数  
府中は職員数5名(正規2名)で登録者数369名なので職員1名あたり73.8名  
調布は職員数13名(正規8名)で登録者数286名なので職員1名あたり22.0名
- \*み～なの役割図 作成

#### 2 各数値等から見た分析

- \*府中市の特色として特別支援学校が2ヵ所あり、入院できる大きな精神科病院があり、都立病院などもあるので、障害者が多く、障害のある就労者・就労希望者も多い。

\* 府中市は就労の相談件数も多い。

\* 隣の市である調布市と比較して就労支援センター職員1名あたりの登録者数は単純に計算して3.35倍となり、支援に手が回らないであろうことがわかる。実際にハローワーク府中では調布の就労支援センターから利用者登録の相談があることもあり、面談に職員が同行することも多いが、府中は行くことができない状況がある。

\* 調布は新規就労者・職業定着の人数も多い。(都資料より)

**第4回会議** 日時 平成30年11月9日(木) 10:00~12:00 出席委員 5名

数値からの見える化、役割図からの見える化の肉付けを行なう。

#### 1 数値の見える化

\* ハローワーク府中からの資料よりハローワーク府中管轄自治体の登録者・新規求職者については府中市が一番多く、次に調布市となっている。また、新規求職者・就職件数の5年間の推移は身体・知的障害者は横這いだが、精神障害者は増えている。

#### 2 役割図の見える化

\* 関係者図と相談～再就職までのステージに分けた支援図の作成を行なう。

**第5回会議** 日時 平成30年12月14日(金) 10:00~12:00 出席委員 7名

#### 1 表にする数値の検討

\* 人口比率、障害者の推移、就職率・定着率

⇒数値から府中市は定着率が低いという課題が見える。

\* 課題解決の具体的な方法

- ・ 会社へのモニタリング機能が必要。また会社への学習会・講習会などの支援も必要。
- ・ 当事者が気軽に相談できる体制⇒サテライト事業所の設置はどうか。
- ・ 困ったことを発信できない利用者⇒専門職による指導・助言等の支援が必要。

#### 2 役割図の見える化

\* 関係者図と相談～再就職までのステージに分けた支援図の作成・検討を行なう。

**第6回会議** 日時 平成31年1月8日(金) 10:00~12:00 出席委員 8名

最終報告に向けたまとめ

## 4 府中市の就労支援の現状

### (1) 数値から見る府中市の就労支援の現状

ハローワーク管轄自治体の障害者就労支援に関する数値を出したところ、人口規模が府中市と似ている調布市との違いが明らかとなった。

\* 表の2より就労支援センターの登録者数に対し職員の数が少ないことがわかる。

\*表の3、4より職員が少ないため府中市は相談件数が少なく、特に企業との連絡調整がとれていないことがわかる。

\*表の5では訓練等の実績も少ないが、これは職員が手薄で訓練等につなぐことができず、表の6のように新規就労者も伸びなかったのではないかと思われる。

\*表の7より就労継続者も少ないことがわかる。定着支援が不十分なことが理由ではないかと思われる。

表 就労支援センター関係資料

		府中		調布		多摩		稲城		狛江	
1	人口(a)	260,116人		234,906人		148,838人		90,538人		82,469人	
2	就労支援センター職員(b)	正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規
		2人	3人	8人	5人	2人	0人	3人	1人	3人	2人
	登録者数(c)	369人		286人		264人		200人		186人	
	職員1人あたりの登録者数(c/b)	73.8人		22.0人		132.0人		50.0人		37.2人	
3	対企業相談件数(d)	898件		3,018件		1,062件		838件		568件	
	登録者1人あたりの対企業相談件数(d/c)	2.4件		10.6件		4.0件		4.2件		3.1件	
	職員1人あたりの対企業相談件数(d/b)	179.6件		232.2件		531.0件		209.5件		113.6件	
4	対利用者相談件数(e)	4,664件		14,302件		4,328件		2,483件		3,572件	
	登録者1人あたりの対利用者相談件数(e/c)	12.6件		50.0件		16.4件		12.4件		19.2件	
	職員1人あたりの相談件数(e/b)	932.8件		1,100.2件		2,164.0件		620.8件		714.2件	
5	訓練等実績(f)	23人		121人		10人		45人		11人	
6	新規就職者数(g)	15人		66人		43人		23人		31人	
7	就労継続者(h)	221人		261人		148人		121人		77人	
	登録者の就労継続者の割合(h/c×100)	59.9%		91.3%		56.1%		60.5%		41.4%	
8	ハローワーク登録者数(i)	1,516人		1,129人		901人		426人		362人	

※(a)：平成30年12月1日時点の人口合計

※(b)：平成30年8月20日時点の人数（各市へ確認した情報より）

※(c)～(h)：平成30年3月31日時点の人数・件数（平成29年度区市町村障害者就労支援事業の実績報告集計表（平成30年度第一回東

京都障害者就労支援関係機関意見交換会資料)より)

※(i):平成30年11月30日時点の人数(ハローワーク府中からの情報より)

## (2) 役割図から見る府中市の就労の現状

就労支援センターの役割は、本人への相談・登録、準備、定着、休職・離職等の支援や、生活の支援、企業への支援、関係機関との連絡調整など多種多様な支援が必要である。

- \* 「障害のある方の『働きたい』を支える」ためのみ～なの役割図に関係機関を列挙したところ、多くの関係機関とのかかわりがあることが再認識された。
- \* 就労支援に関する役割では就労支援コーディネーター、生活支援コーディネーター、地域開拓促進コーディネーターの仕事内容を記載した。それぞれに多くの仕事内容があることがわかる。
- \* み～な支援先の表より企業、関係機関は府中市だけではなく23区や他県なども多い。企業に訪問するにも時間がかかることがわかる。
- \* み～な登録者経過より毎年30名位の登録者が増えている。今後も同じペースで増え続けると思われる。平成24年に職員が5名になった時の登録者177名に対し、平成29年の登録者は364名と倍以上になっているが職員の人数は変わらず、1名いた嘱託職員（正規職員）が臨時職員（非正規職員）となった。職員体制は不安定な状態にある。

## (3) み～なの現状

- \* 正規職員と非正規職員の2人組で対応して、どちらかがいなくても対応できるようにしている。
- \* 非正規職員の入れ替わりが多いため、専門性を育成・定着させるためにも体制整理が課題である。
- \* ともだちサークル（登録者で仕事が安定している人）には月1回40名程度が参加している。み～なに来ていない人については、様子を知ることが難しい。順調に参加している人は家庭も安定している。SOSを出せない人は面談にも来ない。そのような人には支援が行き届かない。
- \* ハローワークへの就労支援センター職員の同行は他市に比べて少なく、特別支援卒業生への教員との同行も府中市はあまり行けていない。府中市は忙しそうなので声をかけづらいという意見もあった。

## 5 就労支援部会の提言

府中市の就労支援センターの現状を踏まえ、府中市の障害者の就労（定着）支援のためのマンパワーが不足していることが分かる。み～なでは正規職員2名、非正規職員3名であり、近隣市と比較すると、就労支援を受ける側に対して、提供する側の担い手が少ない状況にある。また、み～なにおいては、非正規職員が短期間で入れ替わっている状況にある。障害者の就労（定着）支援にあたる職員は、障害特性に関する広い知識や本人に寄添った支援を行なうための福祉的専門性が求められ、登録者との信頼関係の構築も重要な業務であり、これらを確立させるためには登録者との継続した関わりが必要である。就労（定着）支援を安定的かつ継続的に提供するためには、就労支援センターの体制整理や拡充が必要である。拡充の方策については、単に就労支援センターの増設に限らず、まずはマンパワーの拡充のために雇用形態を含め継続的な専門職を育成できる体制を構築し、障害者が安心して相談できるように質の高い相談員の育成と増員が必要と考える。

現在のみ～なの場所が最寄駅から離れており、時間の都合上、仕事帰りに就労支援センターまで相談に行くことができない登録者もいるため、対応策の検討が今後の課題である。

障害者が就労した際に就労支援サービスを利用することで、納税者として職業定着し、その人らしい生活を送ることができるようになる。そのためにも就労支援が可能な限り充実したものになるよう期待する。